

ガーダシル[®]を 接種された方(保護者の方)へ



目次

- 3 はじめに
- 4 ガーダシル®について
- 5 接種スケジュールについて
- 6 接種後の注意点
- 8 副反応について
- 10 接種後の失神と痛みについて
- 12 子宮頸がん^{けい}検診について
- 14 Q&A

はじめに

4価HPVワクチン ガーダシル®は、肛門がん(扁平上皮癌)や尖圭コンジローマ、女性の子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルス(Human Papillomavirus : HPV)感染を予防するワクチンです。

この冊子では、ガーダシル®の概要、投与スケジュール、接種後の注意点についてご紹介します。

不安に思うことや、もっと知りたいことなどがありましたら、医師など医療関係者にご相談ください。



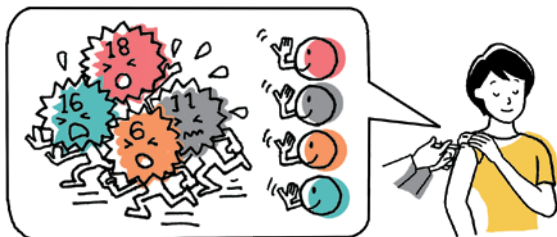
ガーダシル®について

ガーダシル®はヒトパピローマウイルス(HPV6、11、16、18型の4つ)の感染を防ぐワクチンです。

肛門がんや尖圭コンジローマ、女性の子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス(Human Papillomavirus: HPV)という、ごくありふれたウイルスの感染が原因で起こることが知られています。

ガーダシル®を接種することで、肛門がんや女性の子宮頸がんの原因となるHPVの16、18型に加え、尖圭コンジローマの原因となるHPVの6、11型に対する抗体がつくられます。

ガーダシル®は、ワクチンに含まれるHPV型が原因の肛門がん(扁平上皮癌)や尖圭コンジローマ、女性の子宮頸がんを予防するワクチンです。



ガーダシル®に含まれる4つのHPV型により、日本人の尖圭コンジローマの原因となるHPV型の95%をカバーします¹⁾。
また、日本人の子宮頸がんの原因となるHPV型の65.4%²⁾、
肛門がんの原因となるHPV型の87.4%(外国人データ)をカバーします³⁾。

① ガーダシル®に含まれているHPV型以外のHPV感染およびこれらによる病変の発症予防の効果は期待できません。

1) 厚生労働科学研究費補助金研究「尖圭コンジローマにおけるHPV-DNA検出による実態把握」小野寺昭一 2011

2) Sakamoto J et al. *Papillomavirus Res.* 2018; 6: 46-51.

3) Alemany L et al. *Int J Cancer.* 2015; 136: 98-107.

接種スケジュールについて

十分な予防効果を得るためには、
ガーダシル®を必ず3回接種してください。

ガーダシル®は初回（1回目）、その2ヵ月後（2回目）、6ヵ月後（3回目）に、
通常、腕の筋肉内に注射します。

3回接種することで十分な予防効果が得られるため、3回目まできちんと
接種してください。

接種スケジュール 初回接種、2ヵ月後、6ヵ月後



1年以内に3回の接種を終えることが望ましいとされています。また、2回目および3回目の接種が2ヵ月後および6ヵ月後にできない場合は、医師に相談しましょう。

1回目にガーダシル®を接種した場合には、
2回目、3回目もガーダシル®を
接種してください。1回目の接種後、
2・3回目で他のHPVワクチンを
接種した場合の予防効果や
安全性は確認されていません。



接種後の注意点

- 1 接種後にめまいやふらつき、失神などが起こることがあります。倒れないように注意し、すぐに帰宅せずに接種後30分程度は院内にとどまり、体重を預けられるような場所で、イスに座るなど安静にしてください。



- 2 接種後は、注射部位を清潔に保ってください。

- 3 接種当日は、過激な運動を控えてください。



4

接種した日に入浴しても問題ありません。ただし、体を洗うときに注射部位を強くこすらないようにしてください。



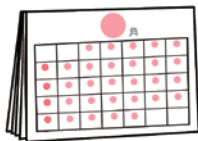
5

女性は、3回の接種が完了しないうちに妊娠した場合は、医師にご相談ください。



6

接種スケジュールを確認し、2回目、3回目も同じHPVワクチンを接種してください。



副反応について

ガーダシル®の接種により、次のような副反応があらわれることがあります。異常が認められた場合は、すぐに医師、看護師、薬剤師に相談してください。

一般的にワクチンを接種すると、接種した部位が腫れたり痛むことがあります。これは、体の中でウイルス感染を防御する仕組みが働いているために起こる症状で、通常は数日程度で治まります。長く続いたり、気になる症状がある場合は医師に相談してください。

特に注意が必要な副反応

- 過敏症反応[アナフィラキシー(頻度不明)、気管支痙攣(頻度不明)、蕁麻疹(0.4%)など]
呼吸困難(呼吸が苦しいなど)、じんましんなどを症状とする重いアレルギー
- ギラン・バレー症候群(頻度不明)
手や足に力が入りにくい、しびれなどを症状とする末梢神経の病気
- 血小板減少性紫斑病(頻度不明)
鼻血や歯ぐきからの出血、皮下出血などがみられる病気
- 急性散在性脳脊髄炎(頻度不明)
発熱、頭痛、けいれん、運動障害、意識の低下などを症状とする脳などの神経の病気

その他の副反応

注射部位の痛み、赤み、腫れ

頻度10%以上



頭痛、注射部位のかゆみ、発熱

頻度1～10%未満



体がふらつくめまい、感覚が鈍くなる、傾眠(刺激がないと眠ってしまう)、
体が回転しているように感じる、下痢、腹痛、
悪心(吐き気や胸やけ、胃がむかむかする)、手足の痛み、
筋肉が硬くなる、手足の不快感、注射部位のしこり、
注射部位の出血、注射部位の不快感、注射部位の内出血、
注射部位の変色、注射部位の知覚低下、
注射部位の熱感、だるさ、白血球数増加

頻度0.1～1%未満



蜂巣炎(皮ふ局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ)、リンパ節の腫れ・痛み、
失神、おう吐、関節の痛み、筋肉痛、注射部位の血腫、
無力症(まぶたが下がる、物がだぶって見えるなど)、寒気、疲れ

頻度不明

接種後の失神と痛みについて

接種後、30分程度は安静にしてください。
また、接種後に体調の変化があった場合には、
すぐに医師に相談してください。

HPVワクチンの接種後に、めまいやふらつき、失神などが起こることがあります。転倒してけがをしないように、次の3つの注意事項を守ってください。

3つの注意事項

- 1 接種後に診察室から待合室などへ移動するときには、看護師や保護者などに腕を持って付き添ってもらってください。
- 2 接種後30分程度は、背もたれや肘かけのあるイスなど、体重を預けられるような場所で待っていてください。
- 3 待っている間は、なるべく立ち上がることを避け、座ってください。

気分が悪くなったり、めまいを感じたら、転倒ないようにイスにもたれかかる、しゃがむ、横になるなどして、すぐに受付や看護師、医師に知らせてください。

接種後にふらつきや失神が起こる理由

注射を打ったときの痛み、恐怖、興奮などによる刺激が脳神経のひとつである迷走神経を介して中枢に伝わり、心拍数や血圧が下がったりすることがあります。そのため、気分が悪くなったり、めまいやふらつき、失神などが起こります。これは、血管迷走神経反射とよばれ、多くの場合、注射後の失神が起こる原因と考えられています。血管迷走神経反射は思春期の女性に多いという報告がありますが、男性においても発生が報告されています。特に注射への恐怖心が強い方は注意が必要です。

接種後に痛みやしびれ、手足の動かしにくさ、 不随意運動^{ふすいいうんどう}などが長く続く場合には、適切な 診療が可能な医療機関を受診いただくことが 必要です。

- ワクチンの接種を受けた後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）などを中心とする多様な症状が起きたことが報告されています。
- この症状は専門家によれば「機能的身体症状」（何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その身体症状に合致する異常所見が見つからない状態）であると考えられています。
- 症状としては、①知覚に関する症状（頭や腰、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に関する過敏など）、②運動に関する症状（脱力、歩行困難、不随意運動など）、③自律神経等に関する症状（倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常など）、④認知機能に関する症状（記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など）などいろいろな症状が報告されています。
- 「HPVワクチン接種後の局所の疼痛や不安等が機能的身体症状をおこすきっかけとなったことは否定できないが、接種後1ヵ月以上経過してから発症している人は、接種との因果関係を疑う根拠に乏しい」と専門家によって評価されています。
- また、HPVワクチン接種歴のない方においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在したことが明らかとなっています。
- このような「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていません。
- ワクチンの接種を受けた後や、けがの後などに原因不明の痛みが続いたことがある方はこれらの状態が起きる可能性が高いと考えられているため、接種については医師とよく相談してください。

ワクチン接種後の「多様な症状」の発現状況については、これまでの臨床試験結果からでは判断できない点もあるため、今後さらに調査を行って、検討していく予定です。

子宮頸がん検診※について

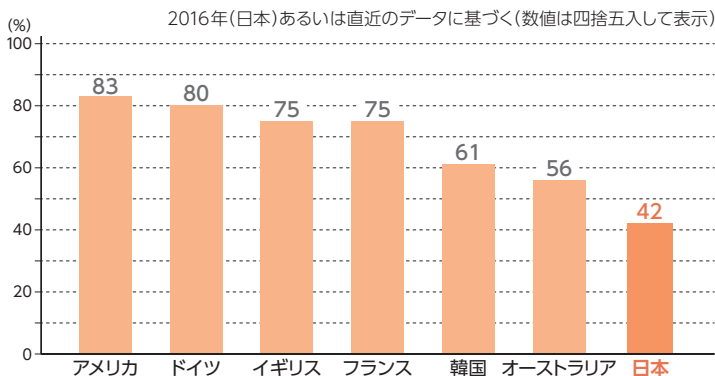
※国の指針としては、20歳以上の女性において、2年に1回の受診が推奨されています。

ガーダシル®は子宮頸がんを100%予防できるわけではありません。
ガーダシル®の接種とあわせて、20歳を過ぎたら子宮頸がんの早期発見、
早期治療のために、定期的に子宮頸がん検診を受けるようにしましょう。

日本は他国に比べて、子宮頸がんの 定期検診受診率がとても低い状況です。

世界の各国では、子宮頸がん予防への意識が高く、アメリカやドイツでは
約80%の女性が定期的に検診を受けています。今や先進国では子宮頸がん
検診は、多くの女性に必要な検診と捉えられています。

世界各国の子宮頸がん検診受診率 (OECD加盟国における20～69歳の女性、2019年)



公益財団法人 がん研究振興財団 がんの統計 '18. より作図

子宮頸がん^{けい}予防

HPVワクチン接種



子宮頸がん^{けい}検診



注) ガーダシル®の接種とあわせて、20歳を過ぎたら定期的に子宮頸がん^{けい}検診を受けるようにしましょう。

HPVワクチンの接種や子宮頸がん^{けい}検診について相談できる、
お近くの医療機関を検索してみましょう。

もっと守ろう.jp

<http://www.shikyukeigan-yobo.jp/>



Q&A

Q

接種のスケジュールが遅れてしまいましたが、
どうすればよいでしょうか？

A

初回接種の2ヵ月後または6ヵ月後の接種スケジュールから遅れてしまった場合は、気づいた時点でなるべく早く接種して、その後のスケジュールを継続してください。最初から接種をやり直す必要はありません。

Q

接種を予定した日に風邪を引いてしまいましたが、
接種はできますか？

A

体調が極めてよくないとき、熱が37.5℃以上あるときは、ガーダシル®の接種はできません。医師にご相談のうえ、体調が回復してから接種してください。

Q

ガーダシル®の接種を完了しました。
これで一生、**肛門がん**(へんぺいじょうりがん扁平上皮癌)や
尖圭せんけいコンジローマ、**子宮頸がん**(けい)になりませんか？

A

たとえワクチンを接種しても、**肛門がん**(へんぺいじょうりがん扁平上皮癌)や**尖圭**せんけいコンジローマ、**子宮頸がん**(けい)を100%予防できるわけではありません。気になる症状がありましたら、早めに医師にご相談ください。
女性は20歳を過ぎたら、定期的に**子宮頸がん**(けい)検診を受けてください。

Q

ガーダシル®を接種した後に妊娠してしまいました。
どうすればよいでしょうか？

A

3回接種を完了する前に妊娠した場合は、医師にご相談の
うえ、次の接種を出産後まで延期してください。

Q

ガーダシル®を接種することで、
子どもができにくくなるということはありませんか？

A

ガーダシル®の接種によって子どもができにくくなるという
報告はありません。また、ガーダシル®には不妊を誘発する
ような物質は含まれていません。

Q

インフルエンザなど、
他の予防接種を受けようと思っています。
気をつける点がありますか？

A

他のワクチンを接種する場合、あるいはすでに他のワクチン
を接種済みの場合は医師にご相談ください。



ガーダシル® 接種記録カード

接種予定日を記入し、ガーダシル®の3回接種完了にお役立てください。

女性の方へ

- 接種後、気になる症状があるときは医師にご相談ください。
- 予防効果を得るためには3回接種する必要があります。
- 1回目にガーダシル®を接種した場合は、2回目、3回目もガーダシル®を接種してください。
- 3回の接種の途中で妊娠した場合には、接種を見合わせ、その後の接種については医師にご相談ください。
- 20歳を過ぎたら、定期的に子宮頸がん検査を受けましょう。

ガーダシル®
接種記録カード



ガーダシル®接種記録カード

接種予定日を記入し、ガーダシル®の3回接種完了にお役立てください。

医療機関名

氏名

初回	年 月 日	接種予定日・接種日	ロット番号
初回接種日から 2か月後	月 日	月 日	
初回接種日から 6か月後	月 日	月 日	

接種スケジュール

